

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥408番地1		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町村受理日	令和7年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2171000488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームのほかにも看護小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所者生活介護など、各施設と連携を取りながら、入所者様やご家族の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は病院であり、利用者の大半は入居前からのかかりつけ医となじみの関係ができています。法人運営の各施設や事業所と連携を密にし、法人の強みである総合的支援で利用者や家族のニーズに沿った支援に取り組んでいる。事業所は町の中心地に位置し、家族、友人、知人が訪問しやすい。散歩に出れば地域の人にも会え、話す機会を得て、自然な形で地域密着型サービスの実践に繋がっている。事業所内に「認知症患者からの10のお願い」が掲示しており、職員は常に意識し利用者の気持ちに寄り添いながら支援している。適切な職場環境作りにも取り組んでおり、職員の定着率も良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に貼り実践している。コロナ禍に入り難しい部分もあるができるだけ実践するよう心掛けている。	事業所は、ケアの基本として、「拒否しない」「命令しない」「話を聴く」など、利用者中心の支援を実践している。壁には認知症高齢者の接し方の10項目が掲示しており、日々、意識しながらミーティングでも共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会や外出が少しずつできるようになり、付き合いも増えているし、行事や園児との交流もできている。	コロナ禍で地域の付き合いが難しい時もあったが、徐々に戻りつつあり、友人・知人の面会も多くなった。回覧で行事の連絡を受けて参加するなど、地域の情報も得られるようになってきている。敷地内の庭や通路は近隣住民に開放しており、利用者との交流の場所になっている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	責任者が会議に参加した内容を聞き、実際に活かせるよう努力している。	今年度は、7月に第1回運営推進会議を同法人の事業所合同で開催することが出来ている。各事業所の取り組みや利用者の状況、活動報告等について意見交換を行なっている。家族の参加も多く、積極的な発言や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談員やケアマネと連絡をとり介護職員とも意見交換しながら取り組んでいる。	市担当者から運営推進会議の場で、行政の動き、介護保険の動向、地域高齢者の実態など報告を受けている。地域の課題を話し合い、事業所の役割等を検討しながら協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているができる限り身体拘束がないよう努め、3要件いずれも満たす場合はご家族の同意を得ている。	身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。止むを得ない時の3要件を再確認し、利用者の心身への弊害を理解し、拘束をしない場合のリスクについて話し合っている。勉強会も開催し、参加できない職員は、内容を確認できるようにしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるであろうグレーゾーン(不適切ケア)についても見過ごさず、しっかり対応している。	虐待防止委員会は、身体拘束適正化委員会と同じメンバーで開催している。勉強会も行い、年1回は「虐待防止チェックリスト」による確認を実施し、不適切ケアについての意識強化を図っている。虐待の兆候や報告があった際には、見逃すことなく、速やかに報告することとし、職員に周知している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については理解しているが、まだ知識不足なところがあるので、研修などでさらに深めていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や退所時などの説明は十分な時間をとり、ご理解納得いただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会もできるようになり顔を合わせて話すことも増えたので意見交換・報告ができています。	毎月発行する「夕焼け小焼け便り」には、日頃の活動や行事の際の写真を掲載している。担当者が家族宛てに書いたメッセージも同封しており、家族からも好評を得ている。面会時の意見や要望等も集約し、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議などの提案を聞く機会を設けている。全員ではないが常に聞ける、話せる雰囲気作りを心がけている。	管理者も職員と同じシフトでケアを行っており、意見や希望等を直接、聞いている。会議でも、職員が自由に意見を表出することが出来るよう雰囲気作りに努めている。意見や提案について、組織的な判断が必要な場合は、法人全体で話し合い改善に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	環境や条件の整備に努めているが、人員不足等なかなか難しい時もあり職員同士協力し合っている。	職員が家庭と仕事の両立ができるよう、働き方の希望を聞いている。個々のワーク・ライフ・バランスに配慮しながら環境整備を行っている。過去には子供連れで勤務した職員もあり、職員同士が協力し合いながら、子育て世代の職場環境や就業条件を整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会(施設内研修、外部研修)の確保や、受講のための勤務、時間の調整を行いケアの向上に努めている。	職員一人ひとりが、専門職としてのスキルアップを目指し取り組めるよう、内・外部においての研修受講を推奨している。また、外国籍の職員には、先輩職員が、一緒に働く仲間として育てていこうという意識があり、皆でモチベーションを高めている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各職能団体の研修への参加や、近隣施設との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いをくみ取り、職員はもとより利用者間のコミュニケーションが円滑になるよう、日々対応している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様ご本人の希望・要望に対し作成されたケアプランをもとに、対応できるよう心がけている。またそれを会議で共有している。	利用者が安心して、希望や要望を話せる雰囲気作りに努めている。意思疎通が困難な人は行動や表情、仕草で思いを推測するよう心がけている。新たな気づきは職員間で共有し、家族の協力が必要な事は相談しながら支援している。	利用者の思いや意向を分析し、少しでも希望が実現できるよう、家族と共に話し合いながら、本人の希望実現につなげる取り組みに期待したい。
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に意見交換を行い、それを多職種連携(介護者、看護師、栄養士等)のもと相談し作成している。	介護計画作成時には、ケアマネジャーが家族の希望や意見を聞き、多職種で連携しながら計画作成会議で話し合っている。訪問時に家族が参加する場合もある。現状に即した介護計画を作成し、利用者の状態変化時には、家族と話し合い見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、情報は個別生活管理シートに記録して共有し、支援の見直しや維持に活かしている。	職員は、個別生活管理シートに利用者の状態変化や申し送り内容等を、時間帯ごとに記録している。職員がすぐに見ることが出来る場所に保管し、内容を共有している。特に注意する事は口頭でも伝え、適切な支援につなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り対応できるよう心掛けているが、柔軟な支援などなかなかとりにくくない現状である。	通院は家族同行を基本としているが、家族の事情によっては職員が対応している。個別の買い物支援や理・美容院への送迎、福祉用具購入の相談や行政手続き代行など、柔軟に対応している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊りや地域の図書館など地域資源を活用し、楽しみをもって生活をしていただけるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している医院があり、すぐ受診できる体制が整っている。休日、夜間でも対応できるよう用紙を作成してある。	契約時に、かかりつけ医を選択できることを説明している。母体法人である併設の医院が、定期的な診察や健康管理を行っており、必要時にはすぐに受診できる。休日や夜間等でも、利用者が適切な医療を受けられる体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネ、管理者を中心に行っている。	入退院時には、管理者やケアマネジャーが窓口となり、医療機関と情報交換を行っている。利用者の状態もその都度家族に報告している。退院時には、利用者の病状経過を職員に説明し、事業所での受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意見を常に確認し、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期の支援についての指針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化時には早い段階で医師の意見を聞きながら家族と話し合っている。看取りを希望する家族には、さらに話し合いを重ね、支援体制を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に主治医や看護師に報告、相談をして指示を受けて対応している。また救命講習を受けている職員もあり、今後受講人数を増やしていけたらと思う。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が理解できるよう昼夜想定し定期的に訓練を行っている。また自治会の方も訓練に協力していただいている。	年2回、夜間想定を含め、防災訓練を実施している。利用者の誘導や関係機関への通報訓練を行なっている。自治会や近隣との協力体制も整い、毎年地域全体で、ハザードマップで確認しながら、水害や地震等対策について、話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重という部分では、介護職員の思い込みをなくし声掛け、傾聴を意識しながら対応に注意している。	職員は、利用者1人ひとりの人格の尊重やプライバシー保護に重点を置き、接遇研修で学んでいる。長い関わりから、利用者との親しい仲であっても、節度ある声掛けやプライバシーを損ねない対応に努めている。排泄や入浴介助の際には、特に羞恥心にも配慮するよう心がけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならないよう、利用者の思いを聞き自己決定できるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	尊厳の保持という観点から、各個人の日々の生活が希望に添えるよう支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを伝えたり、その方にあった食事形態を考えたり栄養を考えたり、調理員・栄養士と連携をとっている。お盆やテーブル拭き等手伝ってもらっている。	管理栄養士の指導の下、三食を手作りしている。調理担当の職員が利用者の状態に合わせた食事形態にして提供している。利用者はできることで手伝っており、献立表の一部や行事食、おやつ等を写真付きで家族に報告している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を中心に多職種で連携し、一人ひとりに合わせた量、食事形態を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室の方もフロアの方も毎食後行っている。ご自身でできない方への言葉かけ手伝いも行っている。	食後の口腔ケアは習慣化できている。自分で磨く人、職員の補助が必要な人など、利用者の状態に応じて支援し、口腔内の清潔保持を実践している。家族と相談しながら、歯科医の往診や治療に繋げている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれのペースに合わせて声掛けやトイレ誘導をしている。職員が二人介助するなど安全面にも十分配慮してトイレでの排泄を継続していただいている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めているが、ご本人の都合や体調に合わせて時間や曜日をずらして対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や希望を聞き居室で休んでいただいている。夜間は安眠できるように、日中体操、外気浴で活動していただいている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は医師、看護師からの指示、アドバイスを受け症状の変化に合わせた支援を行っている。実習生等にも随時説明・確認しながら行っている。	薬が変更された時には、看護師から薬の目的や副作用についての説明があり、全職員に周知している。服薬支援は職員2名で対応し、配薬から飲み終えるまでを見届け、空袋の確認も行なっている。誤薬や飲ませ忘れないよう努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を取り入れ、楽しく過ごせるように支援をしている。	利用者の生活歴や残存機能を把握し、やりたい事が継続出来るよう支援している。得意な編み物や作品作り、チラシを利用したごみ箱作り、洗濯たたみ、掃除等、役割を持って行えるようサポートしている。作業終わりには、感謝の言葉かけをし自信に繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出もできるようになり天気の良い日は散歩したり、ご家族様と連絡をとり一緒に外出できる方は出かけたりしている。	天気の良い日には、近隣を散歩しながら住民と挨拶を交わしている。庭で外気浴をしたり、果実の成長ぶりや金魚の餌やりも楽しんでいる。家族の協力を得て外出する人もある。年間計画を立て、季節の外出支援に取り組んでいる。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため事務所管理としている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもご家族と会話できるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活なので難しい部分はあるが、壁飾りを季節で変えたり、テーブルに花を飾ったり、行事で季節を楽しんでもらったりしている。	共用スペースは広く、安心・安全な環境で福祉用具利用者も自由に移動することができる。利用者は、窓から庭の景色を眺めながら、季節を感じることもでき、往来する地域住民の声も聴こえてくる。利用者と職員の協働作品を掲示し、季節の花を飾り、整理整頓された環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士近い席に配置をしたり、本を読んでみたり、塗り絵をしてみえたり、思い思いの時間を過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や作品を飾ったり、なじみのものを置くことで安心して居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の危険な場所を把握し、利用者様にとって障害物となるものを設置しないように、安全かつ自立した生活が遅れるように支援している。		